

「本を作りませんか？ 未来のセラピストのために」

僕が最初に本書の編集者からいただいた言葉です。

正直、これだけ情報が民主化して、スマホで誰でも無料の情報にアクセスできる時代に、「本」という媒体に価値があるのか疑問でした。

この本はセラピスト1～3年目向けのテキストです。

でもテキストは廃れます。情報は古くなります。医療情報は増え続けます。

これから時代はもっと変化します。今ある常識は明日に崩れているかもしれません。

COVID-19がもたらした変化スピードはあまりにも「急」でした。

あらゆる業種・業界に変化が求められました。

それは教育にも同じことが言えます。

だからこそ、この本は2.0に進化する必要があったのです。

変化と進化が問われる時代の「テキスト」。

テキストという媒体から飛び出して、著者とダイレクトにつながる試みも取り入れました。

50名近い著者がかかわっている1冊ですから、そこには50名のセラピストとしての

働き方があり、考え方があり、臨床の捉え方があります。

いずれも“正解”ではなく、でも“間違い”でもありません。

社会に一步出た瞬間から常に答えのない問いがつきまといます。

それが「臨床」です。

臨床に出て不安な時に、この本を開いてください。

将来の不安がある時に、この本を開いてください。

僕は10年経った今も、現場で汗をかきながら悩んでいます。

教科書通りにいかないことだらけです。

だからこの本でみなさんが思ったようにならないときに著者らとつながり、

それを共有できたらと思っています。

みなさんが進んだこの道は、深い「ありがとう」をいただける仕事です。

世の中を見渡してもこんな素敵な仕事は数少ないと本気で思っています。

この本にかかわったすべての人が、みなさんの一步を後押しできるように。

未来を担う若いセラピストのための1冊として。

2021年5月

吉田直紀